

会議名	支援相談員部会 西ブロック会	<input type="checkbox"/> 全体会 <input checked="" type="checkbox"/> ブロック会 <input type="checkbox"/> 執行部会
開催日	平成 23 年 7 月 29 日(金) 14:00 ~ 17:00	
場所	相模原南メディカルセンター	
参加者	あじさいの郷、アゼリア、えびな、ガーデニア・ごしょみ、ききょう苑、ケアガーデンさがみ湖、コミュニティケア北部、相模大野、さつきの里あつぎ、サンライズ箱根、ニューライフ湯河原、ふれあいの丘、ほほえみの丘、みかん、メイプル、ライフプラザ鶴巻、ウエルケア新吉田、よみうりランドケアセンター 以上 18 施設 21 名 記録者:平松	
内容	<p>1.ブロック長より挨拶</p> <p>2.自己紹介と情報交換(業務で困っていることなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅から遠く利用者確保に苦慮。 ・厚木市に特養が新設される予定。空きができる心配がある。 ・その他伊勢原や秦野にも新しい施設がオープンしている。入所だけでなく通所利用者も減ってしまう恐れがある。通所の稼働率を上げるにはどうしたらよいか？ <p>→入所利用者を在宅復帰支援し、デイやショートステイにつなげる方法がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療依存度が高く療養型と老健の狭間にいる方の申込が増えている。 ・病院からの入所が多い。老健からの入所はあまりない。 ・インスリンを使用している方の受け入れが増えている。 ・病院から再入所するケースで、情報が何もないのに病院から「明日入所させて欲しい」と無理を言われる。 ・相談員とケアマネの役割分担がはっきりしていない。 ・入所基準の線引きが変わってきている。審査が通りにくくなった。 ・今後ターミナルケアを始める方向。入所期間が長引く傾向にあれば、そこで看取ってあげるのもひとつの手段だと思う。 <p>→利用者の希望により看取りをした。その場を発見したスタッフは心に重いものを持つのでは？また、予め事態が起こっても訴えないという取り決めをするなど準備が必要。</p> <p>4.事業者情報について(部会長より)</p> <p>諸事情により開始が遅れる旨説明。</p> <p>3.事例検討</p> <p>事例(1) (グループディスカッション)</p> <p>76 歳女性。夫と死別し実子はいない。独居生活を送るが脳梗塞を発症。ADL 低下により単身生活は困難とのことで老健に入所。身内は甥のみ。入所後状態は回復したが、施設生活に不満を持ち在宅生活を希望。一方、甥は月 1 回の面会のみで関わりが少ない。本人からの度重なる要求や不満に対して「これ以上面倒は見られない」とこぼすようになった。</p> <p>意見:本人の意向を尊重しデイケアやショートステイなど在宅サービスを使って在宅復帰を支援したい。</p> <p>その際独居になるのでケアマネや地域包括、市のフォローが必要。どのくらいサポートできるかによる。</p> <p>本人の施設生活に対する不満を詳しく聞いたほうが良いのでは？嫌いな入所者が居るのかもしれない。</p> <p>あるいは入所前に一人暮らしをしていたので自由に生活をしたいのかもしれない。</p> <p>入所するときに今後どのようにしていきたいのか目標を決めたほうがスムーズにいったかも知れない。</p> <p>施設生活に不満がある場合、まずは施設サービス計画の見直しをしてはどうか？</p> <p>ご本人のニーズがどこにあるのか？経済状況も把握する必要がある。</p>	

内容

事例(2) (ロールプレイを行った後グループに分かれてディスカッション)

83歳男性。電話での問合せの際、妻より入所の相談を受け安易に「入所の方で相談にのれるかと思います。」と答える。その後、家族が来所し老健相談員と面談。インスリンの注射を1日4回使用していることが判明する。相談員より家族へ「注射を行っている場合、調整が必要になり最終的に判定会議で決まります。」と説明するが、妻や長男が「お電話では入所できるようなことをおっしゃっていたじゃないですか」と怒り出してしまう。最後に「病院の相談室の方に聞いたらどうでしょうか？」と言われた家族はあきれた様子で帰っていった。

意見:安易に入所できると思わせてしまった。

電話での問合せの段階で本人の状態を聞き、施設の受け入れ状況を伝える。

診断書の提出や判定会義があるなど流れを説明する。

自施設で対応できないのであればインスリン対応可能な施設を紹介する。

医療リスクを電話の段階で確認する。

面接においてもインテークを深められたら良かった。

病院に相談して注射の回数を減らせるか調整する。

対応できない場合はなぜ対応できないか理由をきちんと伝える必要がある。

相談員は施設の顔。自分のところがダメでも次につなげることができるかどうかが大事。そのためにはアンテナを張っていかなければいけない。

以上